



4年に1度の伝統行事

比和牛供養田植・5/29

No.5

比和町木原屋で県無形民俗文化財に指定されている、比和牛供養田植が行われました。700年前に鳥取県の大山から伝わった太鼓踊りの技法が始まりとされ、現在は4年に1度、実行委員会主催で行われています。

華やかな飾りを身にまとった牛20頭が代かきをしたあと、サゲと呼ばれる男性たちの田植え唄と太鼓の節に合わせて、編みがさにかすりの着物の早乙女たちが苗を植えていきました。

実行委員長の若林隆志さんをはじめ多くの方が、この伝統ある行事を後世にも伝えていきたいという強い思いを持って取り組んでいる姿に、市外から来た方々も感銘を受けた様子でした。



▲列をなす華やかな飾り牛

音と光を楽しむほたるの夕べ

総領保育所ほたる見会・6/17

No.4

総領保育所で、今回で10回目となる「ほたる見会」が開催され、園児と保護者の総勢100人が参加しました。今回の催しでは、三次市在住のエレクトーン奏者の桑田弘美さんを迎え、エレクトーンでのミニコンサートとホタル鑑賞が行われました。

コンサートでは、「ディズニーメロデー」や「はらぺこあおむし」など園児になじみのある曲が次々と演奏され、曲に合わせて歌ったり踊ったりして会場は盛り上がり、参加者はエレクトーンの多彩な音色と軽快なリズムを満喫しました。

コンサート終了後の午後8時には、保育所近くの田総川沿いを親子で自由散策し、川面を飛び交うホタルの幻想的な舞を楽しみました。



▲桑田さんの演奏で踊る園児

手作りの真空管アンプを楽しむ

第17回手作り真空管アンプの会・6/5

No.6

球楽達人の会による「手作り真空管アンプの会」が口和郷土資料館で開催されました。オーディオ愛好者が手作りした個性豊かな真空管アンプを持ち寄る中、四国地方唯一の会で、今年で9年目を迎えます。今回は県内外から手作り真空管アンプ14台と参加者106人が集合し、クラシックやポピュラー、ジャズ、歌謡曲などのレコードの素晴らしい音に耳を傾けていました。中には見て楽しめるアンプもあり、会は大変盛り上がりしました。

コーヒータイムではシフォンケーキが振る舞われ、参加者は熱心に情報交換していました。製作者は手作りの面白さについて語り合い、「良い音が聴けるのが嬉しい」「回路を考えるのが楽しい」などと話していました。一般参加者からは「素晴らしい音に満足」「見るだけでも楽しい」「生演奏のよう」などの声が聞かれました。参加者は余韻に浸りながら、次回11月6日の再会を約束して帰途につきました。



▲真空管アンプの音色に聞き入る参加者

山の整備で地域の活性化

多飯が辻山開き・東屋落成式・5/21

No.1

東城町の多飯が辻山で田森自治振興区主催の「山開き」と「東屋落成式」が行われました。

田森地域では、平成26年度からひろしまの森づくり事業を活用し、眺望を良くするための山頂付近の整理伐（間伐）や東側の登山道、駐車場、丸太ベンチ、トイレなどの整備を進めてきました。東屋では田森地域の豊かな自然のパノラマが眼下に広がり、山頂まで登ると道後山や比婆山などのほか鳥取県の大山も遠くに望むことができます。

東屋は昨年12月に建築されましたが、この日横山邦和会長ら3人がテープカットを行い、参加者25人全員で完成を祝いました。

横山会長は「みんなの力でここまで整備できた。地域の誇りにするとともに多飯が辻山を広くPRして、地域の交流人口を増やしたい」と話していました。



▲眼下に広がる田森地域の壮大なパノラマ



▲整備された登山道と並んで歩く



▲東屋では落成式が行われた

夏山登山の開幕

比婆山・道後山で山開き

No.3

西城町で、5月29日に比婆山、6月19日に道後山の山開きが行われました。登山者の安全を祈願する神事をはじめ、民謡、西城川太鼓の演奏、神楽の奉納や福もちまきなどの催しがありました。

福もちまきでは、もちと一緒に景品が当たるくじの入っている袋があり、子どもも大人も楽しそうに福を拾っていました。

当日は雨天となり、両日とも屋内での開催となりましたが、神事の際には参加者は静かに耳を傾け、厳かな雰囲気の中、山開きとなりました。



▲道後山での神事式

市民がよりくつろげる場所に

庄原ロータリークラブ社会奉仕活動・5/31

No.2

中央児童公園で庄原ロータリークラブの皆さんが、社会奉仕活動の一環として、昨年のテーブル3台の寄贈に引き続き、老朽化が進んでいたベンチ20脚の座板を新しく取り換えました。

新しくなったベンチに座った竹田則之会長は「公園がきれいになると市民の方が利用しやすくなる。地域の子どもの遊びの場としてはもちろん、誰もが気軽に訪れ、市街地の中のくつろぎと憩いの場として利用していただきたい」と話していました。

ベンチには、早速子どもやお年寄りなどが腰掛けて、読書や会話を楽しんでいました。



▲会員の皆さんがベンチの座板を取り換えた



田舎のおいしい野菜活用

大学生がトウモロコシの種まきを体験・5/14

No.7

西城町三坂の^{まよだたかくに}前田忠邦さんの農地を借りて、広島経済大学興動館プロジェクトのカフェ運営プロジェクトで活動する学生14人がトウモロコシの種まきをしました。

本プロジェクトは、「大学で運営するカフェで西城町産のトウモロコシを使ったメニューを提供できないか」という取り組みの一環で、八銚自治振興区の協力を得て実現しています。

学生は作業後、メニューポップを作成し、地元産のキャベツなどを使った春野菜のクリームパスタを昼食として調理。その日にお世話になった人などにごちそうしました。

プロジェクトリーダーの^{かわかみたくよ}河上琢哉さんは、「去年はトマトの栽培について取り組んだが、継続することで、当プロジェクトと庄原市の間で人とものがお互いに行き交うような関係になれば」と話していました。



▲種まきをする学生



▲学生が作成したメニューポップ

心が通う教育旅行民泊

台湾からの教育旅行民泊受け入れ・5/17～18

No.9

庄原実業高校の姉妹校である台湾の国立関西高級中学の高校生33人が庄原市を訪れ、実業高校での学校交流会の後、比和町三河内地区と高野町合わせて12軒の受け入れ家庭に分かれて1泊しました。

生徒たちははじめ、言葉が通じず不安そうな表情を浮かべていましたが、それぞれの家庭で着物の着付けや、高野産の野菜を使った日本食の調理などを体験し、受け入れ家庭との交流を笑顔で楽しんでいました。

受け入れをした高野町の^{たなかせつこ}田中節子さんは「海外の生徒の受け入れに言葉が通じず戸惑ったが、一緒に過ごすうちに心はしっかりと通じた。彼らにとって高野町が心の古里になってくれるとうれしい」と話していました。



▲日本食の調理体験をする生徒たち

吾妻山でソバ合戦

吾妻山山開き・6/5

No.8

毎年恒例の吾妻山山開き。登山者の安全を祈願する神事式と神楽の奉納が行われました。本年は、比和町と共に吾妻山を囲む島根県奥出雲町と合同で、初の試み「神話の里 ソバ合戦」が企画されました。「ソバ合戦」では、比和のソバと奥出雲のソバを食べ比べ、おいしいと思った方に箸で投票しました。

ソバ券の販売所では、券の販売開始前から行列ができていました。比和町の^{まつのまさゆき}松野昌幸くん（小学2年）は「奥出雲のソバはやわらかい。比和のソバの方がかたくておいしい」と話していました。

投票の結果は、比和のソバが「210票」、奥出雲のソバが「222票」を獲得し、僅差で奥出雲のソバに軍配が上がりました。



▲奥出雲のソバ（左）と比和のソバ（右）